

病院機能評価受診を終えて

病院長 村上恒二

平成23年が明けました。昨年は猛暑でしたが、今年は初っ端から山陰、九州では久々の大雪となり交通が大混乱して始まりました。その後もラニーニャ現象とか偏西風の蛇行とかで日本列島は寒波に襲われ二月に入っても相変わらずの雪が降っています。また、予報ではスギ花粉の飛散量も今年は昨年より多量になりそうな気配です。今年も自然に攪乱される一年になるのでしょうか。

昨年は政治の不甲斐なさやうんざりさせられることの多い一年でした。政治の大混乱はしばらく尾を引きそうですが、医療政策には今まで以上に鋭敏なアンテナが必要になりそうです。

さて、今年1月24日から26日まで病院にとっては初めての病院機能評価を受審しました。病院開設以来の目標は、1年目「チーム医療の体制構築」、2年目「財政基盤の安定」、3年目「医療の質の向上」を掲げてまいりましたが、丁度3年目に当たり時宜を得たものとして「医療の質を向上させるための第三者による評価の導入」が必要と考え、病院機能評価を受審いたしました。また、組織体として病院機能の一層の向上が必要と考え、「組織力の向上を目指す」良い機会と思ひ受審した訳です。

しかしながら、いざ受審してみますと病院機能評価とは、一にも二にも「診療および業務上の指針・手順づくり」がすべてのようで、まさにマニュアルづくりに追われた10ヶ月間であったかと思ひます。そして、結果的には皆様方には大変な業務量を強いる結果となり本当に申し訳ない思いでいっぱいです。

機能評価の効果と利点を考えてみますと、①現状の把握・改善のきっかけづくりができたこと、②効果的で具体的な改善目標の設定ができたこと、

③職員の自覚と改善意欲の醸成のきっかけづくりができたことであるかと思ひます。また、病院機能評価の影響が大きかったこととしては、①「理念および基本方針が明確にされるようになった」、②「患者の権利に関する方針が明確にされるようになった」、③「病院内の禁煙が徹底されるようになった」、④「診療および業務上の指針・手順が整備されるようになった」、⑤「病院内の細かな部分の整備が進んだ」ことであるかと思ひます。また積み残した課題としては「身体抑制の適用基準と実施手順を明確にすること」ですが、これは現在、倫理委員会で検討して頂いているところです。

3月には日本医療機能評価機構からの審判が下ることと思ひますが、結果はさておき職員の皆様が一丸となって取り組んで成し遂げたことに大きな意味があります。さらに病院の改善については、「機能評価を受けることで終わった」のではなく、「機能評価を受けたことが改善の始まり」であることを十分認識して頂き、引き続き病院の改善に取り組んでいきたいと思ひます。

なにはともあれ、機能評価を一致結束して無事終わることができましたことはリハビリテーション病院の皆様の「パワーとエネルギー」の象徴であり、機能評価の各領域における領域長を務めてくださった幹部職員の方々、そして膨大な事務量をこなして引っ張ってくださった中本主事、田淵主幹、医局の先生方、各病棟師長、リハビリテーション部、薬剤部、放射線科、臨床検査科のそれぞれ長の方々、そして職員の皆様に厚く御礼申し上げます。



※病院機能評価とは

病院を始めとする医療機関が提供する医療サービスは、医師、看護師等様々な専門職種の職員の技術的・組織的連携によって担われていますが、医療の受け手である患者のニーズを踏まえつつ、質の高い医療を効率的に提供していくためには、組織体としての医療機関の機能の一層の充実・向上が図られる必要があります。それらを受審する第三者機関として日本医療機能評価機構があります。その日本医療機能評価機構による審査を病院機能評価といいます。病院機能評価を受診すると病院の現状・問題点を明らかにし、その結果、機能改善が認められた病院に対して認定証が発行されます。



2~4月行事食

- 2月3日 節分
- 2月14日 バレンタイン
- 3月3日 お雛祭り
- 3月21日 春分の日
- 4月1日 お花見



お誕生日食 ※食事形態によっては対応できない場合があります。ご了承ください。※写真はイメージです。



—こころ通信—

広島市総合リハビリテーションセンター

〒731-3168 広島市安佐南区伴南一丁目39番1号

TEL (082) 848-8001

FAX (082) 848-8003

E-mail souriha@city.hiroshima.jp

理念

私たちは、利用者の皆様が住み慣れた地域でいきいきと心豊かな

生活ができるよう、良質で信頼される総合的なリハビリテーションサービスを真心をこめて提供します。

基本方針

- 1 中途障害者の皆様の社会復帰や社会参加を促進するため、相談・評価から医療・訓練、就労援助までのリハビリテーションサービスを一貫した計画のもとに提供します。また、保健・医療・福祉の関係機関と連携を図り、地域におけるリハビリテーションを支援します。
- 2 利用者様一人ひとりの立場に立って悩みや希望を理解し、誠意を持った細やかな対応と良好な環境整備に努め、個人の権利を尊重したサービスを提供します。
- 3 病院は、専門スタッフが回復期を中心としたリハビリテーションにチームで取り組み、最適のリハビリテーション医療を提供します。また、インフォームド・コンセントを徹底し、安全で信頼される医療を提供します。
- 4 自立訓練施設は、家庭や職場、地域での生活を再構築するための通過型施設として、最適な相談・訓練等のサービスを提供します。

利用者の皆様の権利

あなたには、個人として尊重される権利があります。

あなたには、良質で安全な医療・福祉サービスを平等に受ける権利があります。

あなたには、あなたの症状や障害の状態、リハビリテーション計画について十分な説明と情報提供を受ける権利があります。

あなたには、リハビリテーション計画をあなたの意志で選択し、決定する権利があります。

あなたには、診断やリハビリテーション医療について、他の医師の意見を聞く権利があります。

あなたには、プライバシーが守られる権利があります。

当院のリハビリテーション

広島市総合リハビリテーションセンターリハビリテーション病院
リハビリテーション科 担当課長 森内 康之

医療の目標が人類の幸福に寄与することは不変ですが、その時々の中核的課題は社会環境に対応しながら変化しています。わが国では感染症対策を中心とした原因に対する治癒を目指した時代から、生活習慣病や慢性難治性疾患への環境対策や疾病・障害の予防などに対する地域・在宅・生活を基盤とした医療の枠組みを拡げた取り組みが重要視されるようになってきています。

世の中の変化は誠に早く、リハビリテーションも病院を中心とした急性期リハビリテーションの実施や療養施設での長期慢性期へのかかわりのみならず、高齢人口の急速な増加、疾病構造の変化と共に、回復期リハビリテーションへの取り組みが要請されるようになってきています。こうした中、当リハビリテーション科の役割は、急性期治療後の残存する障害に対して、集中的リハビリテーションを実施することにあります。言い換えれば、より積極的なリハビリテーションを実施できるこの回復期に、多様なリハビリテーションサービスをより長時間提供することです。またそのサービスの提供が可能

な設備と人員を配置しています。

さて、当リハビリテーション科の組織は、理学療法部門、作業療法部門、言語聴覚部門、心理療法部門の4部門から構成されています。各部門の職員数は、それぞれ理学療法士27名、作業療法士22名、言語聴覚士10名、心理療法士1名の計60名で、これは公的病院としては、西日本でも有数の職員数を誇っており、さらに各方面においての精鋭療法士が集められ、最高の回復期リハビリテーションサービスを提供できる体制にあります。当リハビリテーション科の各専門職は、日常の診療はもとより、各種の技術習得にも熱意があり、研修等を通して日夜自己研鑽に努めています。

リハビリテーション医療はチームアプローチが重要であると言われてはいますが、当病院でのリハビリテーションは、患者さまの状態の変化や今後の方向性について、医師を中心として、多職種間での迅速かつ頻繁な情報交換を行い、効果的なチーム医療を実践しています。必ずや満足していただけるものと確信しております。



理学療法

<理学療法って何?>

理学療法とは、運動療法、教育指導、温熱、寒冷、光線、水、マッサージおよび電気を治療手段に用いて、身体に障害のある方に対して主に基本的動作能力(寝返る・起き上がる・座る・立つ・歩く・車いす・階段を昇り降りするなど)の回復を図ります。

Physical Therapist:PT

理学療法士は、関節可動域の拡大、筋力の強化、麻痺の回復、痛みの軽減など運動機能に直接働きかける治療から、動作練習や歩行練習などの動作能力の向上を目指す治療法を用いて日常生活の自立を目指します。

理学療法士を一言でいうならば動作の専門家です。

<理学療法部門の特色>

車いすや座クッションを数多く取り揃えており、利用者の皆様の状態に合わせた調整を行うことができます。また、退院後の生活が安心して送れるための支援として、自宅へ退院される方に対して、医師、作業療法士やソーシャルワーカーと共に家屋調査を行い、在宅生活に向けた環境調整や動作指導などを行っています。

理学療法室



移乗動作練習



歩行練習



車椅子や器具を取り揃えています

作業療法

機能訓練や作業活動を用いて、3つの能力を維持・改善します。

- ◎基本能力(運動機能・高次脳機能・精神機能)
- ◎応用能力(食事やトイレなど、生活で行われる活動)
- ◎社会生活適応能力(地域活動への参加、就労・就学に必要な活動)

Occupational Therapist:OT



↑ゲームや手工芸などの様々な活動を利用して身体機能の改善を図ります。

基本能力練習



↑道具を使ったバランスの練習をしています。



↑環境や食器などを工夫し、食べやすい方法を提供します。



↑1人でトイレに行っていたりするための方法を検討し、練習を行います。

応用能力練習

手すりやイスを使い、安全にお風呂に入る練習をします。



↑復職に向けて、パソコン操作などの再獲得を目指します。

車椅子に座ったままで料理を行う練習をしたり、工夫された道具の提供を行います。↓



↑掃除や洗濯の練習なども行います。



↑シミュレーターを使用している運転評価とともに必要に応じて自動車学校に同行します。

畑や園芸など屋外での活動を通じて、四季を感じながら体力づくりや気晴らしを行います。↓



社会生活適応能力練習

言語聴覚療法

Speech-Language-Hearing Therapist:ST

聞く、考える、話す、読む、書くといった言語・コミュニケーションが難しくなった方、またそのご家族の方と一緒にリハビリを行います。ご家族の方にはことばの障害や話す際のポイントなどを理解していただけます。また、患者様の今後の生活についても一緒に考えます。

また、食べること、飲み込むことが難しい方には、飲み込みの練習をするとともに、食べやすい食事、食べやすい姿勢を提案いたします。

嚥下造影検査



嚥下カンファレンス

↑食物を飲み込む時、むせてしまう、なかなか飲み込みにくい患者様に対しては、レントゲンを用いた飲み込みの検査や内視鏡を使った検査を行い、能力に応じた食べ方や食事を提供致します。安全に配慮しながら普通食へ近づけていきます。

失語症訓練



失語症をはじめ、高次脳機能障害によって引き起こされたコミュニケーション障害、また運動障害が原因となる構音障害に対して様々な練習を行います。患者様の心理的負担にならないよう、まずは個室で練習を行います。

音声治療



↑声の出にくい患者様に対して、ビジビッチ(声の波形などが目で見られる機械)で声の波形を調べるなどして、声を出しやすくする訓練をします。

心理療法

Clinical Psychologist:CP

突然の病気や事故、その後に続く長い入院生活で、心のバランスが保てなくなることは誰にでも起こり得ます。大切な体や生活のことで心配や不安を感じるのは当然ですが、一人で色々と考えていくのはとても大変なことです。

心理療法では、患者様と心理療法士と一緒に話をしながら、お気持ちや考えの整理を行っています。描画や、リラクゼーションをすることもあります。興味のある方は、主治医や担当のスタッフ、心理療法士にお声かけください。



リハビリテーション科スタッフ わたしたちと一緒に一歩、一歩頑張っていきましょう



1階病棟 スタッフ



2階病棟 スタッフ